

映画で学ぶ 情報を見極める力 / 第5回

『アルゴ』授業ガイド

実話映画の脚色——『**実話にもとづく**』は『**全部本当**』ではない。』

教員用・指導資料（対象：中学生以上）

📖 本資料はAI（Claude / Anthropic）で作成しています。授業でのご利用前に事実関係をご確認ください。専門家の監修ではありません。授業での使用可否・場面の選択・学年の適否は、担当の先生が最終判断してください。

1 授業の概要

テーマ	実話映画の脚色（「実話にもとづく映画」を、事実と創作に分けて受け取る）
教材映画	『アルゴ』（原題 Argo／2012年・アメリカ／監督・製作・主演：ベン・アフレック）
対象	中学生以上。映倫G。冒頭に大使館の占拠や群衆の暴力的な場面がある
時間	標準100分（50分×2）。上映120分。厳選クリップ・あらすじ紹介を組み合わせる
中心概念	実話と脚色／誰の視点で語られるか（CIAとカナダ）／別の資料で確かめる／ニセ情報が信じられるしくみ
ねらい	実話映画には脚色があることを理解し、映画と記録を比べて事実と創作を見分ける姿勢を身につける
準備物	生徒用ワークシート（別PDF）／事件の年表（簡易版）／筆記用具

2 内容への配慮（必ずお読みください）

⚠️ 政治状況・暴力場面の扱い

日本の映倫はGですが、冒頭に**大使館の占拠や群衆の暴力的な場面**があります。

- イラン革命やアメリカとイランの関係を**簡単に補う**。
- 特定の国や宗教への偏見につながらないよう、「**当時の政治状況**」として扱う。
- 映画の創作部分（空港の追跡など）を**事実として教えない**。
- カナダの役割など、**描かれ方の偏り**への批判も紹介する。

📄 レイティング・著作権について

- 日本の映倫はG。ただし配信版・ソフトにより表示が異なる場合があるため、使用予定の版をご確認ください。
- 授業での上映には教育機関向けの権利処理が必要になる場合があります。本教材の文章はすべてオリジナルで、ポスター・場面写真は使用していません。

3 イランアメリカ大使館人質事件（予備知識）

何が起きたのか

1979年11月、イランの首都テヘランでアメリカ大使館が占拠され、多くのアメリカ人が人質になりました。混乱の中で6人の職員が脱出し、カナダ大使らの家にかくまわれました。CIAのトニー・メンデスは、6人を「映画のロケハンに来たカナダの撮影スタッフ」に見せかけて出国させる作戦を立て、1980年1月、6人は無事に国外へ脱出しました。

長く秘密だった作戦

当時、救出はカナダの功績として発表され、CIAの関与は伏せられていました。CIAの役割が公にされたのは、1997年に機密が解除されてからです。

💡 映画が加えた「脚色」

空港で車に追われるようなクライマックスの追跡場面は、盛り上げるための創作とされています。また、実際にはカナダ大使らが大きな役割を果たしましたが、映画ではCIAの活躍が中心に描かれ、「カナダの貢献が小さく見える」という批判がありました。登場人物の性格やセリフの多くも映画のためにつくられています。

実話映画を見る4つの視点（板書用）

① 「実話」を分解する

何が事実で、何が映画のための創作か。

② 誰の視点で語られる？

誰が主役になり、誰の役割が小さくなっているか。

③ 別の資料で確かめる

記録や当事者の証言など、映画以外と比べる。

④ 「うそ」にも力がある

偽の映画の宣伝が本物と信じられたしくみ。

🎯 この授業の到達目標

実話映画に脚色を加えられる理由と例を説明でき、映画以外の資料と比べて事実と創作を見分ける方法を挙げられる。

4 100分授業の流れ（50分×2）

時間	ながれ	先生の動き・発問
0-10分	導入	『「実話にもとづく』と出たら、どこまで本当だと思う？』と問い、予想を記録させる。
10-20分	背景	年表で1979～1980年の出来事と、1997年の機密解除を確認。
20-48分	映画を観る①	作戦を思いつく場面、偽の映画の宣伝をつくる場面（クリップ）。
50-70分	映画を観る②	空港での出国の場面（クリップ）。見る前に「どこが創作か予想しよう」と伝える。
70-88分	ワーク記入	映画と事実の違いを表にまとめ、脚色の理由を考える。
88-100分	共有・まとめ	板書『「実話にもとづく』は『全部本当』ではない。』で締める。

🌱 まとめ

映画は、見る人を楽しませるために出来事を短くしたり、盛り上げたり、変えたりします。それ自体は悪いことではありませんが、「実話にもとづく」を「全部本当」と受け取ると、歴史の理解がゆがむことがあります。脚色があることを知ったうえで楽しむ——それが実話映画との付き合い方です。

5 映画の背景知識

原題／邦題	Argo / アルゴ
製作年・国	2012年・アメリカ。上映120分。映倫：G
監督・製作・主演	ベン・アフレック（トニー・メンデス役）
受賞	アカデミー賞 作品賞・脚色賞・編集賞
原作	原作の一つは、トニー・メンデス本人の著書

主なキャストと役柄

- **ベン・アフレック**（トニー・メンデス役）：人質救出を専門とするCIAの工作員。
- **ブライアン・克蘭ストン**（ジャック・オドネル役）：メンデスの上司。CIA内部で作戦を支える。
- **アラン・アーキン／ジョン・グッドマン**：偽の映画を本物らしく見せるハリウッドの人々。グッドマンが演じるジョン・チェンバースは実在の人物。

📖 本人が語り始めた作戦

中心人物トニー・メンデス本人は、機密が解除されたあと、自らの本や講演で作戦について語るようになりました。映画の原作の一つも、メンデス自身の著書です。

※上記の事実は公開情報（映画.com、Wikipedia等）をもとにしています。細部・脚色には諸説あるため、授業前に必要に応じてご確認ください。

6 発問例・見取りのポイント

Q. 映画の中で「創作ではないか」と思った場面はどこ？ その理由は？

→ 盛り上がる場面ほど創作の可能性があると、という視点へ。空港の追跡場面を例に。

Q. なぜ映画は、カナダの役割を小さく描いたのだろう？

→ 主人公中心の物語にするため、作り手の国の視点など。誰の視点で語られているかを考えさせる。

Q. 偽の映画の宣伝は、なぜ本物と信じられたのだろう？

→ 脚本・宣伝・記者発表など「それらしさ」の要素。現代の二重情報との共通点へつなげる。

ワークシートの見取り（評価の観点）

- 実話映画の事実と創作を、具体的な例を挙げて区別できているか。
- 誰の視点で物語が語られているかに気づけているか。
- 映画以外の資料で確かめる方法を具体的に挙げられているか。
- 意見の発表は強制せず、書いた内容を尊重する。

7 シリーズ全体像

回	映画	テーマ	目安
1	羅生門	証言はなぜ食い違うのか	中学生～
2	市民ケーン	メディアを持つ者の力	中学生～
3	父親たちの星条旗	一枚の写真がつくる「物語」	中学生～
4	スポットライト 世紀のスcoop	一次情報と裏づけ	高校生～
5	アルゴ	実話映画の脚色	中学生～
6	JFK	事実と主張を見分ける	高校生～
7	ソーシャル・ネットワーク	プライバシーと同意	高校生～
8	監視資本主義：デジタル社会がもたらす光と影	SNSのしくみを知る	中学生～

8 参考資料（主な出典）

アルゴ 作品情報（映画.com） <https://eiga.com/>

Wikipedia「アルゴ (映画)」 [https://ja.wikipedia.org/wiki/アルゴ_\(映画\)](https://ja.wikipedia.org/wiki/アルゴ_(映画))

作品：映画『アルゴ』（2012年、監督ベン・アフレック）

© 2026 FilmEdu AI / 本資料はAIを活用して作成しています。授業でのご利用前に事実関係をご確認ください。専門家による監修ではありません。授業での使用可否・場面選択・学年の適否は担当教員の判断によります。作品の著作権は各権利者に帰属します。授業での上映には適切な権利処理（教育機関向けライセンス等）が必要になる場合があります。内容の誤りにお気づきの際はお問い合わせよりご連絡ください。